

## IL/RL テストにおける 将来対応

お客様からファイバーソリューションのチャンネルの増設を求められたらどうなるのでしょうか？ IL/RL テストは、新しい大量のスイッチの要件に合わせて更新するには高価なものになります。しかし、もっと簡単な解決策があります。ユーザーからのフィードバックに基づき、PCT は PCTmax のライセンスアドオンである超モジュラー式カスケード式スイッチに対応するようになりました。この革新的な機能により、複数のスイッチをレイアー

ードアーキテクチャにチェーン接続することができ、既存のスイッチの価値を最大化し、テストセットアップの将来に対応することができます。カスケード式スイッチは、お客様の要件を独自の方法で対応し、柔軟性に欠ける他のソリューションよりも優れた成果を出すことができます。



### カスケード式スイッチを使用する理由

カスケード式スイッチは、次のいずれかを必要とするユーザー向けに設計されています。

- テスト用スイッチを必要とするマルチファイバーのテスト対象デバイス (DUT) がある
- 将来対応にして、変化する要件に適応したい
- 超多チャンネル (> 48 チャンネル) の測定を行う必要がある
- 既存のスイッチを PCT アーキテクチャにシームレスに統合したい

## 主な利点

- **PCTmax によるシームレスなアクセス:**カスケード式スイッチは、PCTmax スーパーアプリケーションを運用している MAP200 または MAP300 内で mORL カセットを使用しているお客様が利用できるライセンス機能です。これにより、競合他社よりも一歩進んだテストとプロセスの自動化を実現できる、PCT の高度な機能を利用できるようになります。
- **柔軟なレイヤードアーキテクチャ:**カスケード式スイッチでは、リーダー/フォロワーレイアウトで複数のスイッチをチェーン接続します。リーダースイッチは mORL に直接接続し、フォロワースイッチはリーダースイッチに接続します。このセットアップにより、お客様のニーズにカスタマイズした柔軟でスケラブルなテスト構成が可能になります。
- **価値の最大化と将来対応:**既存のスイッチを再利用し、システムレイアウトを新しい要件に簡単に適応させることができます。これにより、大型で高価なスタンドアロンスイッチは不要となり、競合他社と比較してコスト効率の良いソリューションを提供します。
- **超多チャンネルテスト:**DUT を移動することなく超多芯ファイバーをテストできます。例えば、2 台の 1x24 スwitch を 1x2 スwitch で制御することで、新しい 1x48 チャンネルスイッチに代わるコスト効率の良い選択肢を生むことができます。より複雑なセットアップでは、1x24 リーダースイッチと 24 個の 1x24 フォロワースイッチを使用して、チャンネル数 576 のテストシステムを作ることができます。チャンネル数 600 の専用のスイッチは必要ありません。



## よくある質問

- **ユーザーインターフェースの外観:**PCT アーキテクチャは、カスケード接続されたスイッチからより大きな 1xN スwitch が構築されているかのように動作し、ユーザーインターフェイスと自動化を簡素化します。
- **システム統合と基準値:**このシステムは、各チャンネルの総長と損失を測定し、異なるチャンネルの基準値を追跡する必要なしに値を報告できます。

ユーザー主導のカスケード式スイッチ機能は、多チャンネルテストへの対応、将来性の確保、そして既存機器の価値を最大限に引き出すための、柔軟かつ独自のソリューションです。この機能により、VIavi のパッシブコンポーネントテスト (PCT) システムは競合他社と一線を画し、従来型のスイッチソリューションに代わる、スケラブルかつコスト効率に優れた代替手段を提供しています。